

1991年を迎えて

東西冷戦構造の解消，統一ドイツの誕生などに代表されるように，昨年は世界の歴史にとってきわめて意義のある年でした。人類社会の繁栄は，平和の維持と自由で公正な競争によって達成されるということが世界の共通認識となってきたからです。また，21世紀に向けて地球環境を守るための温暖化対策についても世界の歩調が整ってきました。一方で湾岸危機という不透明な状況はあるものの，国際交流の活発化という基調は，今後強まることはあっても決して衰えることはないでしょう。

世界の経済や技術開発において大きな役割を担うようになったわが国に対する各国の期待や要求も当然大きくなってきます。各種の経済協力と並んで科学技術の面でも世界への貢献を深めていかなければなりません。研究開発の成果を世界の共通財産とする「テクノグローバリズム」の実現です。当社はこれまでも技術による社会への貢献に努めてまいりました。今後はさらに国際化の度合いを強め，世界に向けての技術の発信地となるよう努力していく考えです。本誌を通じて，そうした姿勢の一端をお汲みとりいただければ幸いです。

エネルギー関係では，地球温暖化への対策なども考慮しながら，原子力，火力，水力の各発電設備，さらには送変電設備のすべてにわたって先端技術を駆使し，電力の量の確保と質の向上に貢献しています。電力各社殿との共同研究も活発で，運転・監視・制御などエレクトロニクス技術の応用も一段と進んできました。さらに，将来型BWR，新型動力炉，燃料電池，核融合など，21世紀に向けての研究開発も活発です。

産業界では，労働力の不足やニーズの多様化，高度化を反映して，FA化，CIM(コンピュータによる統合生産)化への志向が強まっています。これに対応して，各種構成機器の提供やシステムの取りまとめを行うとともに，CIMテクニカルセンターを開設して各方面のご要望にこたえています。公共施設，ビル施設，医用機器，民生機器などの分野では，省エネルギーの徹底を図りながら，人や自然にやさしい技術の開発に努めて

います。AI、ファジィ、ニューロ技術などの応用も進んでいます。

コンピュータを中心とする情報の分野では、Mシリーズの最上位機および関連機器、ソフトウェアなどを発表してSIS(戦略情報システム)の構築を容易にするとともに、分散処理の中核となるオフィスプロセッサについてもコンパクトなL-700シリーズを開発して社会のニーズにこたえました。OA機器では、ブック形ワードプロセッサを開発してパーソナル市場に本格参入しました。

公衆通信の分野では、高度情報社会の基盤となるISDN(サービス総合ディジタル網)用ネットワークのための交換から伝送に至る幅広い新製品を開発して、日本電信電話株式会社殿に納入しました。さらに企業内通信の分野でも、先端技術を駆使したシステムや機器を開発して納入し、高速かつ使いやすい通信の要請にこたえています。

電子部品関係では、カラーブラウン管の大形化、高画質化、カラーディスプレイ管の角形化、フラット化、高精細化と並んで、需要の急増している液晶ディスプレイについてもカラー化を含めた品ぞろえを強化しています。

半導体は先端技術の核となるもので、サブミクロンの時代からハーフミクロンの時代へと進んできました。当社も4Mビットの量産と並行して16Mビットへの対応を早めるなど、メモリ、マイクロコンピュータ、ASICからバイポーラ系、ディスクリート系のすべてにわたって、世界をリードする体制を整えています。

そして、以上の製品を支える研究開発についても、材料開発を含め、本文に紹介するような数々の成果をおさめています。

昨年は、当社の創立80周年の節目の年でもありました。これを礎とし今後も、新技術、新製品の開発を通して社会の発展に貢献できるよう、企業の責任を果たしてまいりたいと考えております。今後ともよろしくご指導くださるようお願い申し上げます。



日立製作所取締役社長 三田 勝茂